

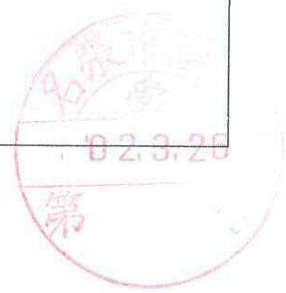


政務活動報告書

令和2年 2月 20日

[自由クラブ]

代表者氏名	山下 登 	記録者氏名	木平 秀喜 
活動者氏名	・木平 秀喜 ・柏 元三		
活動日	令和2年 2月20日(木) ~ 令和2年 2月20日(木)		
活動先	・岐阜県山県市役所		
活動目的	・フッ化物洗口の実施について		
<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none">・岐阜県山県市は、人口25000人ほどの三町村合併の市である。 市内には、11校の小学校がある。 <p>1. フッ化物洗口を始めたのは平成16年である。</p> <p>平成16年当初は、小学校6年生のDMFT指数は学校格差が認められたが平成25年には、DMFT指数の学校格差が消失した。</p> <p>フッ化物洗口事業を理解してもらうために、保護者説明会は丁寧に行っている。</p> <p>令和元年度のフッ化物洗口実地率は全体で99.4%である。</p> <p>フッ化物洗口の指導方法は「はみがき教室」の中でブクブクうがいの練習をしている。</p>			



概要続き

山県市子育て支援課が「フッ化物洗口」だけでなく、歯科医師会・教育委員会・小中学校連携のもと、全児童・生徒対象に「ブラッシング授業」を実地している。

フッ化物を利用して、虫歯を予防するのではなく児童・生徒1人ひとりに「自分の健康は自分で守る意識付け」や「歯肉炎が改善する達成感の体験」などの口腔の健康を通して「生きる力」を育てる事を目的としている。

その結果、令和元年の DMFT 指数は0.06に減少し、学校によっては0.00という小学校が3校もある。

フッ化物洗口のみではなく、ブラッシング指導を重点的に行っていることがこの結果を出していると考えられる。

その結果、フッ化物洗口を実施する事は、虫歯減少において 有効な手段の一つといえる。

現在の本市では、保育所でのフッ化物洗口を行っているが、その結果どのような効果を実証されたかというエビデンスが必要であろうと思う。

フッ化物洗口を実施するにあたり反対署名もたくさん出されている。



本市における実施については、エビデンスをしっかりとしてからやるべきだ。

反対をおし 切ってまでやるべきではなく、児童の保護者への理解を得てから実施すべきだと考える。

政務活動報告書

令和2年 2月28日

〔会派名：自由クラブ 〕

代表者氏名	山下 登 	記録者氏名	柏 元三 
活動者氏名	柏 元三		
活動日	令和2年 2月20日 () ~ 令和 年 月 日 ()		
活動先	岐阜県山県市		
活動目的	フッ化物洗口実施状況調査		

名張市が全小学校において「フッ化物洗口」を実施することに関し、その情報を得た一部の保護者たちが強硬に反対し、署名運動が始まっている。学校教育現場において虫歯予防のために「フッ化物洗口」が適切なのか否か。フッ化物洗口で実績が評価されている山県市を調査した。

山県市は「市内全域の子どもたちの虫歯をなくしたい」とする歯科医師会が主導して虫歯を無くすための運動が始まり。平成16年から虫歯を無くすために考えられるあらゆる方策を同時に始め、フッ化物洗口もその一方法として組み込まれた。12歳児の定期検診において毎年虫歯数を表すDMFT値が減少し、現在は虫歯数がゼロの学校が3校あるほど顕著な効果が現われている。

三重県のフッ化物洗口ガイドランスでも、フッ化物洗口の効果の裏付け資料として、山県市のDMFT指数グラフが掲載されている。

ここで注目すべきことは、山県市のDMFT値の低下、すなわち虫歯数の減少は、フッ化物洗口による効果とは判断できないことに気づいた。

